

## 比較現代日本論講読

「現代日本論論文講読」 (2004 年度第 1 学期) 大学院生対象  
<火 4> 観察室 (文学部・法学部合同研究棟 2F) 授業コード=LM12407

### 授業の概要

#### 授業の目的

- 論文の探し方を習得する
- 論文の読みかたを習得する
- プレゼンテーションの方法を習得する (Microsoft Powerpoint を使用)
- 現代日本文化についての知識を深める

※「現代」というのは、およそ 1970 年以降のことと考えてください。

#### 授業予定

- イントロダクション (4/13)
- 論文をさがす(4/20~4/27)
- プレゼンテーション資料の作成方法 (5/11~5/18)
- 各論文の報告 (5/25~7/27)

※ プレゼンテーションは録画しておいて、担当が一巡したところで、見直して反省する機会を持つかと考えています。

#### 成績評価について

- 毎回の報告と質問によります。

#### 参考書

- 諏訪邦夫 (1995) 『発表の技法』 (ブルーバックス) 講談社。

授業中に使うわけではありませんが、プレゼンテーションをおこなう際の参考になるはず。生協 (文系書籍部) に入荷しているので、各自で購入して読んでおいてください。

#### その他の参考文献

- 藤沢晃治 (1999) 『「分かりやすい表現」の技術』 (ブルーバックス) 講談社。
- 木下是雄 (1981) 『理科系の作文技術』 (中公新書) 中央公論新社。
- 化学同人 (1994) 『若い研究者のための上手なプレゼンテーションのコツ』 化学同人。
- 齊山弥生・沖田弓子 (1996) 『研究発表の方法』 凡人社。
- プロジェクト A・できるシリーズ編集部 (2003) 『できる PowerPoint 活用編: 2000&2002 対応』 インプレス。
- Sane (n.d.) 「Microsoft(R) Power Point(R) の使い方」 <<http://www.sail.t.u-tokyo.ac.jp/~sane/powerpoint/>>。

## 各論文の報告

ひとつの論文について、つぎの 4 つの観点から報告をしてもらいます。

- 鍵概念の抽出 (scanning)
- 構造の抽出 (schemming)
- 図表の解説
- ロジックの抽出 (結論とその根拠)

これらをひとりずつで分担して、計 4 人でひとつの論文を担当します

ひとりの報告は 10 分で、それに対する質疑の時間を 20 分とります。

1 回の授業でふたりの報告をおこないます。つまり 1 本の論文を 2 回にわけて検討することになります。

報告者は、配布資料 (ハンドアウト) と提示資料 (Power Point ファイル) を用意してください。

- 配布資料は人数分のコピーを用意します (研究室のコピー機を使ってください)
- 提示資料は研究室ネットワークの授業用フォルダ内にあらかじめコピーしておいてください
- 10 分におさまるように事前に練習をしておいてください

報告者以外の人、論文を事前に読んで、質問を考えてきてください。報告のあとの質疑のときに手を挙げて質問するのが原則です。

## 各論文の担当

論文	日付	担当する観点	担当者
論文 1	5/25		
	5/25		
	6/1		
論文 2	6/1		
	6/15		
	6/15		
論文 3	6/29		
	6/29		
	7/6		
	7/6		
	7/13		
	7/13		

**比較現代日本論講読 (田中重人)**  
**受講登録フォーム**

2004.4.13

氏名：

学年：

学生番号：

所属 (文学研究科日本語教育学以外の場合)：

興味のあること (非学術的な話題も可)：

- 視覚的なプレゼンテーションの経験は? **ある / ない**
- 学内の他研究室の所蔵資料を借りた経験は? **ある / ない**
- 学外の所蔵資料の貸借や文献複写の経験は? **ある / ない**
- 東北大学附属図書館のオリエンテーションを受けましたか?  
**はい / いいえ**

●論文・雑誌を探すデータベースの使用経験は?  
(あるものに○をつけてください)

- ・雑誌記事索引/MagazinePlus
- ・Web of Science
- ・Ingenta
- ・Ovid
- ・PCI Full-Text
- ・JSTOR
- ・NACSIS Webcat
- ・NACSIS WebcatPlus
- ・NACSIS-IR
- ・日本語教育学研究室の検索システム
- ・その他 (具体的に：

)

●論文を読むゼミにでた経験は? **ある / ない**

### 比較現代日本論講読 現代日本論論文講読

東北大学大学院文学研究科  
2004年度  
田中 重人 (講師)

1

### 【目的】

- ・ 論文の探しかた
- ・ 論文の読みかた
- ・ プレゼンテーション
- ・ 現代日本文化の知識

2

### 【予定】

- ・ インTRODakShION (4/13)
- ・ 論文検索 (4/20-27)
- ・ 提示資料作成 (5/11-18)
- ・ 各論文の報告 (5/25~7/27)  
(1本につき4人で2週間)

3

論文は、各自の興味にあわせて  
受講者が選んだものから  
日本語 1 + 英語 3  
= 計4本の予定

録画しておいて、  
途中で見直す機会をもちます。

4

### 【論文の読みかた】

- ・ Scanning: 鍵概念 (定義・用例)
- ・ Skimming: 構造 (目次)
- ・ 図表
- ・ ロジック (結論-根拠)

5

### 【報告の準備】

提示資料 (パソコン、OHP、スライド)

- ・ 全トピックについて要点を示す
- ・ 文字は大きく (最低でも 20pt)
- ・ 飾りのない文字 (ゴシックなど)
- ・ 文章をすくなく、図を多く

6

ハンドアウト (配布資料)

- ・ 提示資料よりも詳しい情報を
- ・ 論文としての体裁を整える
- ・ 日付・授業名・報告者名・所属  
を書く

7

### 【プレゼンテーション】

- ★ 組み立てをよく考えて、練習する
- ★ 報告用原稿をつくるか、  
提示資料のコピーに  
メモを書いておく

8

- ★ 時間を厳守する
- ★ 聴衆の反応を見ながら話す
- ★ 聴く側も報告者の顔を見て  
反応を返す

9

### 【雑誌論文の種類】

- ★ 雑誌の性質 .....  
Peer Review 制の雑誌か?
- ★ 原著論文・研究ノート・調査報告...
- ★ 投稿論文と依頼論文

10

### 【Peer review という制度】

- 投稿された論文を雑誌にのせるか：
- 新しい内容か?
  - 有用性はどの程度あるか?
  - 内容は正しいか?
- 専門家による審査 (review)

11

### 通常の審査手続き

- ★ 編集委員が審査員をえらぶ (ふつう複数)
- ★ 審査員にまわして判断を求める
- ★ 審査員が一致して「掲載可」なら  
そのまま掲載
- ★ 一致して「掲載不可」ならのせない
- ★ 意見が割れた場合は編集委員が判断
- ★ 「条件付」の場合は書き直して  
再提出・再審査

12

- Peer Review 制雑誌は権威が高い
  - ・ 「学術雑誌」の要件のひとつ
  - ・ 中間的な雑誌もおおい
- ただし掲載まで時間がかかる。  
独創的な論文は載りにくい

13

### 【原著論文その他】

- ★ 原著論文 (ふつうの論文)
- ★ 研究ノート・調査報告など .....  
原著論文より質は落ちるが、  
速報性を要求されるもの

14

### 【投稿論文と依頼論文】

- ・ 投稿論文.....  
通常の手続きで投稿・審査
- ・ 依頼論文.....  
編集委員会の依頼で書く  
(テーマのきまった特集論文など)。  
審査のある場合とない場合がある。

15

- ・ この授業では、peer review 制  
雑誌の原著投稿論文を主対象とする
- ・ 最初の1本は日本語論文、  
あとは英語論文

16

URL: <http://www.nik.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/readg/r040420.html>  
作成: 田中重人 (講師) <[tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp](mailto:tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp)>

比較現代日本論講読 「現代日本論論文講読」 (2004年度第1学期) 大学院生対象

## 第2回 論文をさがす (4/20)

- 先行研究をさがす方法
- 論文をさがす
- 雑誌の所在をさがす
- 雑誌の入手
- 書誌情報
- 課題

---

### 先行研究をさがす方法

#### 芋づる式

本や論文の文献表に載っているものを探していく。

- 「出発点」になる文献の選択が大切
- 良質の先行研究が見つかる可能性が高い
- 別の系列の研究が視野に入らない
- あたらしい研究はみつからない

#### データベース検索

インターネットまたはCD-ROMなどで提供される。タイトルや著者名などだけの情報をもつものから、全文の内容が検索できるものまでさまざま。

- 最新の研究が見つかる
- 幅広い分野からさがすことができる
- 質の低い研究や、自分の関心からはずれた研究まで多量にみつかってしまう
- 検索キーワードの選択と、検索結果を選別する鑑識眼が必要

---

### 論文をさがす

#### 国立国会図書館「雑誌記事索引」

日本国内で出版された出版物は、国立国会図書館におさめなければならないことになっている。この制度にしたがって納本された雑誌の論文・記事について、著者・標題・キーワード・年次などから検索できる。

<http://opac.ndl.go.jp/> から「雑誌記事索引の検索／申込み」をたどる。

- 雑誌数1万以上、採録記事300万件以上
- 出版からだいたい2月以内で収録される
- 時々収録されていない論文がある(例:『日本語学』の1995年以前)
- 一般の雑誌を多数収録しているので、非学術的な内容の記事が引っかかることが多い
- 検索の際は、年次のチェックが適切に入っているかどうかを確認すること

東北大学では、これにさまざまな情報をプラスしたMAGAZINEPLUSサービス(日外アンシエーツ)がつかえる。

<http://www.library.tohoku.ac.jp/dbsi/zsk/> (学内からのみ接続可) 画面左側の「アクセス」直下の「MAGAZINEPLUS」をクリック。

- 東北大学キャンパス内からしか接続できない
- 同時に接続できる人数が制限されている
- 終了時はかならず**LOG OUT**すること
- 1,000ヒットを超えると一覧表示できない
- 収録雑誌等については[http://www.nichigai.co.jp/web\\_service/mz\\_plus.html](http://www.nichigai.co.jp/web_service/mz_plus.html) 参照
- 1975年以降のものしか収録されていない。それ以上ふるいものは国立国会図書館「雑誌記事索引」ならみつかることがある。
- 一般の雑誌を多数収録しているので、非学術的な内容の記事が引っかかることが多い。
- 収録データは、著者・出版年月・論文標題・雑誌名・巻号ページ・キーワード

#### Web of Science

ISI (Institute for Scientific Information) 社による論文データベース。質の高い学術雑誌のみに限定して、論文のタイトル・著者名・抄録・引用文献表を収録している。

<http://www.library.tohoku.ac.jp/dbsi/wos/> (学内からのみ接続可) 画面左側の「アクセス」の2番目の項目の「Web of Science」をクリック。ISI社のページに行くので、「Full Search」をクリックしたあと、使用するデータベースを選ぶ。Arts & Humanities Citation Index および Social Sciences Citation Index がつかえる。

- 「General Search」で Topic に適当な単語を入力して探すとよい
- 抄録および引用文献表から検索できる
- 1996年以降の英語文献を中心に収録
- 質の高い学術雑誌のみに限定して収録されている
- 空白で単語を区切るとフレーズでの検索になる。複数の単語の論理積／論理和検索をおこなうには、「and」「or」で区切る。

## 雑誌の所在をさがす

### 東北大学内の所蔵

MAGAZINEPLUS を使った場合は、検索結果から所蔵状況表示にジャンプできる。

そうでない場合は、図書館 T-LINE OPAC (<http://www.library.tohoku.ac.jp/T-LINES/opac/index.html>) で検索する。ISSNなどをひかえておいて、「詳細検索」でひくとよい。

冊子体が入っていないくても、電子化バージョンにアクセスできるケースがある。  
<http://www.library.tohoku.ac.jp/olj/> から探してみるとよい。

電子ジャーナルはふつうの冊子体とは利用マナーが違うので、不正利用に関するFAQをよく読んでから使うこと。特に、**雑誌全体をブラウズすることは認められていない**ので、注意。

### 他の大学図書館などの所蔵

NACSIS Webcat 検索：<http://webcat.nii.ac.jp/> (by 国立情報学研究所)。  
NACSIS ID を控えておく (AN10091189 のようなやつ)

---

## 論文の入手

- 電子化バージョンにアクセスできれば、そのまま印刷するのが簡便
- 東北大学図書館本館にある → 借り出し (たいてい2号館にある)
- 東北大学内の研究室など → さいてみる (貸してもらえないこともある)
- 他の大学図書館など → 複写または貸借 (レファレンス・デスクで申し込む：有料)。

東北大学図書館では オンラインでの複写・貸借申し込みサービス も行っているの、それを利用してよい。

---

## 書誌情報

### 書誌情報とは

文献を特定するのに必要な情報を「**書誌情報**」(bibliography) という：

- 著者名
- 出版年
- 論文表題
- 雑誌名
- 巻,号: 掲載ページ

- 雑誌発行元※

※雑誌発行元は通常は不要 (雑誌名だけで特定できる場合)  
→ Webcat でたしかめること。

### 雑誌論文の書誌情報の書きかた

日本語教育学研究室での文献参照ルール

著者 (出版年) 「論文名」 『雑誌名』 巻(号), pp. 掲載ページ.

のように書く。

具体例：

渡辺雅子 (2001) 「説明スタイルの日米比較：初等教育に見る異文化の意味」  
『社会学評論』 52(2), pp. 333-347.

もし雑誌を区別するために発行元の情報が必要なら、巻号とページの間に入れる

朴承圓 (2002) 「不満表明場面における一人称「私」の使用をめぐる」 『文化』 65(3/4), 東北大学文学会, pp. 323-342.

雑誌に関する重要な情報は、たいてい**表紙にある**(まれに表紙裏にあることも)

複数の号数やページ付けが共存していることがある。その場合、つぎのような基準で選択する：

- 巻号方式と通号方式が両方ある場合 (例：40巻3号 = 163号) は、巻号方式
  - 巻ごとのページと号ごとのページが両方ある場合は、巻ごとのページ
- 

### 課題

現代日本文化に関する論文で自分の興味にあうものを日本語2本、英語2本さがし、書誌情報を書いて提出。

- Peer review 制の雑誌の原著投稿論文に限定する (その雑誌の投稿規程などをみればたいていわかる)
- 来週までに現物を入手してコピーを提出 (メールボックスへ)
- 今日提出したものよりいい論文をみつけたときは、そちらに変更していい
- 表紙など、書誌情報がわかる部分もコピーすること
- 複写等で時間がかかる場合は再来週まででよい
- 複写サービスの費用がかかった場合は領収書をとっておくこと

URL: <http://www.nik.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/readg/r040427.html>  
作成: 田中重人 (講師) <[tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp](mailto:tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp)>

比較現代日本論講読 「現代日本論論文講読」 (2004 年度第 1 学期) 大学院生対象

## 第 3 回 文献検索に関する補足 (4/27)

- 雑誌論文を探す (つづき)
- 本を探す (書誌情報から)
- 本を探す (内容から)
- 博士論文を探す
- 新聞記事を探す
- リンク集

---

### 雑誌論文を探す (続き)

国立情報学研究所「研究紀要ポータル」  
<http://kiyo.nii.ac.jp/>

- 国内の大学・研究機関・学会等が発行する雑誌の論文の書誌情報を収録。
- 抄録や全文を検索・閲覧できる論文もある (少数)。
- 昔の「NACSIS-IR 学術雑誌目次速報データベース」が発展したもの
- 収録誌一覧は <http://sokuho.nii.ac.jp/pub/gjcm1500> を参照

Ingenta  
<http://www.ingenta.com/>

- タイトル・著者・抄録からの検索が主だが、全文情報を対象に検索できる場合もある
- Online articles は電子化されていてオンラインで読める雑誌についての検索、Fax/ariel articles は電子化されていない雑誌についての検索
- 東北大学で電子版を購入している雑誌については、全文をオンラインで読むことができる (学内からのみ)。
- 英語文献が中心
- Advanced Search のオプションで検索対象年度を設定しないと、新しいものしか検索できない

OVID Online  
<http://www.library.tohoku.ac.jp/dbsi/ovid/>

- 図書館以外で使うには ID とパスワードが必要 (研究室でたずねること)
- さまざまな領域のデータベースの複合体
- 対象となるデータベースを選択してから検索する。使えるのは ERIC (教育学関係) と PsycINFO (心理学関係) か
- キーワードを入力すると、それぞれのデータベースの持つ類義語辞書にしたがって、該当する分類別の一覧が示されるので、検索したいものにチェックをいれて「continue」を押す。類義語辞書を使わずにそのままキーワード検索したいときは、検索窓すぐ上の「Map Term to Subject Heading」のチェックをはずしておくこと。

PCI Web / PCI Full Text  
<http://www.library.tohoku.ac.jp/dbsi/pci/> (学内からのみ利用可)

- 人文・社会科学系の著名雑誌の情報を創刊号から持つ。
- 一部の雑誌については、論文全文の PDF ファイルが手に入る
- 出版から数年たたないと収録されない (→最新情報を検索するには向かない)。

JSTOR  
<http://www.jstor.org/> (学外からの利用には ID を取得する必要あり)

- 人文・社会科学系の著名雑誌 117 タイトルの全文情報を創刊号から持つ。
- 出版から数年たたないと収録されない (→最新情報を検索するには向かない)。
- まず対象分野を選んで検索する
- 日本語教育学関係で使えそうなものはあまりない?

Contents Search  
<http://www.library.tohoku.ac.jp/T-LINES/docs/contents/> (学内からのみ接続可)

- オランダの Swets Blackwell 社の提供による欧文学術雑誌の目次情報等をもとに、東北大学図書館が加工したもの。
- デフォルトでは最新 1 週間分の情報の検索になるので、対象範囲を適宜変更すること。
- 情報の更新が非常に早い。
- 検索結果の詳細画面で、東北大学図書館内の所蔵状況が確認できる。

---

### 本を探す (書誌情報から)

NACSIS Webcat  
<http://webcat.nii.ac.jp/>

- 国立情報学研究所による。
- 日本国内の大学図書館等の本と雑誌の所蔵データを統合したもの。

NDL OPAC  
<http://opac.ndl.go.jp/>

- 国立国会図書館の所蔵資料を検索できる。日本国内で出版されたものは国立国会図書館に納本しなければならないことになっているので、制度上は、日本国内の出版物を網羅しているはず。
- 和書については、【簡易検索窓】で検索できる。詳細な検索をしたい場合は「一般資料の検索 / 申込み」をえらぶ

Library of Congress  
<http://catalog.loc.gov/>

- アメリカ合衆国議会の図書館
- 英文で出版された本に関してはおそらく世界最大のデータベース
- 英語以外の文献も豊富に所蔵している

## COPAC

<http://www.copac.ac.uk/>

- イギリス・アイルランドの大学図書館の図書・雑誌所蔵データ統合検索サービス。
  - British Library のデータもふくむ
- 

## 本を探す (内容から)

### Webcat Plus

<http://webcatplus.nii.ac.jp/>

- 上記 Nacsis Webcat の和図書のデータに出版社等のデータを加えた和書データベース。
- 「連想検索」機能を持つ
- 本の目次や宣伝文句(帯などのキャッチコピー)から検索できる。
- 各論文の著者名は記録されていない。

### 東京都立図書館

<http://www.library.metro.tokyo.jp/>

- 所蔵図書の内容の要約データがある。
- 各論文の著者・表題も記録されている。
- ほとんど和書のみ
- 学術書の所蔵は少ない。

### 東京大学情報基盤センター Book Contents

<http://contents.lib.u-tokyo.ac.jp/contents/top.html>

- 東京大学図書館の所蔵図書について、本の目次や宣伝文句(帯などのキャッチコピー)から検索できる。
  - 洋書も検索できる。
  - 各論文の著者名は記録されていない。
- 

## 博士論文を探す

### NDL OPAC

<http://opac.ndl.go.jp/>

- 「一般資料の検索／申込み」をえらび、検索対象に「博士論文」を指定
- 日本国内で提出された博士論文はすべて網羅されているはず。

### UMI Dissertation Online Service

<http://proquest.sunmedia.co.jp/dds/>

- ProQuest 社(旧 University Microfilm International)による学位論文データベース
  - アメリカ合衆国で提出された博士論文を検索できる。
  - 論文の PDF ファイルを購入することもできる。
- 

## 新聞記事を探す

### 開蔵：朝日新聞オンライン記事データベース

<http://www.library.tohoku.ac.jp/dbsi/dna/>

- 『朝日新聞』(1984年8月から当日まで),『週刊朝日』『AERA』『知恵蔵』の記事検索のほか、人物データベース検索機能も持つ
- データ内容は [http://www.asahi.com/information/detail\\_dna.html](http://www.asahi.com/information/detail_dna.html) および [http://www.asahi.com/information/intro\\_person.html](http://www.asahi.com/information/intro_person.html) 参照

### インターネット KD：河北新報オンライン記事データベース

<http://www.library.tohoku.ac.jp/dbsi/kd/>

- 1991年8月以降の『河北新報』掲載記事データベース
- <http://www.kahoku.co.jp/pub/kdj.htm>
- 図書館からしか使えない。カウンターでたずねてみること。

### The Times Digital Archive

<http://www.library.tohoku.ac.jp/dbsi/> からたどってください。

- Times 記事の画像化データベースに、OCR で文字化したテキスト検索機能が付随している模様。
- 

## その他のデータベース

- 日本語教育学研究室のもの：  
<http://localnet/> から(研究室内からのみ接続可; 近々サービス内容変更?)
- 「生成する目録」記載のもの  
<http://www.ne.jp/asahi/coffee/house/BIBLIO/> (岡本真さんによる文献データベース集)
- 東北大学図書館によるリンク集：  
<http://www.library.tohoku.ac.jp/search/link/>

URL: <http://www.nik.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/readg/r030511.html>

作成: 田中重人 (講師) <[tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp](mailto:tsigeto@nik.sal.tohoku.ac.jp)>

比較現代日本論講読「現代日本論論文講読」(2004)

## プレゼンテーション資料の作成 (5/11)

- プレゼンテーションに関する一般的な注意事項
- この授業での使いかた
- スライドの基本的なつくりかた
- プレゼンテーション
- 表・グラフ
- アニメーション
- 印刷物・画像をとりこむ
- ファイルの保存
- ノートとアウトライン
- 印刷
- 参考文献

---

### プレゼンテーションに関する一般的な注意事項

- スライド1枚ずつをゆっくり説明すること。1枚あたり1~2分程度。
- 文字は大きく(20ポイント以上)
- かぎりのない文字(ゴシック、Arialなど)
- 背景とのコントラスト(暗色の背景に明色の文字)
- 背景の模様は視認性の点で不利

---

### この授業での使いかた

- 研究室のPCにはPowerPoint 2002がインストールされている
- 各自が使うプレゼンテーションのファイルは、研究室ネットワーク内の  
¥¥nikserve¥¥Projecter¥¥比較現代日本論講読  
においておく。作成者氏名と日付を組み合わせて「2004.4.13 田中.ppt」  
のようなファイル名をつける。

## スライドの基本的なつくりかた

1. Power Point を起動
2. 「書式」→「スライドのデザイン」
3. 適当なテンプレートを選ぶ

サンプルが表示されるので、上記の条件に合うものをえらぶ。ただし視認性にすぐれているサンプルはあまりない。背景がうっとうしいものは、「書式」→「背景」で「マスタ上のグラフィックスを非表示にする」チェックを入れてつかう。

田中がつかっているデザインテンプレートは  
<http://www.nik.sal.tohoku.ac.jp/~tsigeto/readg/deeppurple.pot> または研究室ネットワーク内の ¥¥nikserve¥¥public¥¥tanaka¥¥deeppurple.pot にある。これを開いて、ファイル名を付け直してつかうと便利である。

あたらしいスライドを追加するには「挿入」→「新しいスライド」。右側にレイアウトのサンプルが出るので、適当なものを選ぶ。

スライド上に適当な図形要素をおくことができる。画面下端の「オートシェイプ」のなかからえらぶ。

文章は、スライド上に直接はおけない。「テキストボックス」を作成して、そのなかにかきこと。

---

### プレゼンテーション

「スライドショー」→「実行」で全画面表示になる(または「F5」キーを押す)。

- Enter キーかマウス・クリックでつぎのスライドに移動
- Esc キーで終了
- カーソル(矢印)キーで前後に移動できる

---

### 表・グラフ

「挿入」→「新しいスライド」で表またはグラフ用のスライドをえらぶ。適当な例が表示されるので、形式やデータを変更する

---

## アニメーション

アニメーション効果を出したい部分を選択しておいて「スライドショー」→「アニメーションの設定」

頻繁に使用するのは、おそらく「開始」系のアニメーションである。

アニメーションは、ちがうバージョンの PowerPoint にもっていったときにうまく動かないおそれがある。

---

## 印刷物・画像をとりこむ

(スキャナがつながっているコンピュータのみ)

1. Photo Editor を起動 (「プログラム」→「Microsoft Office ツール」→「Microsoft Photo Editor」など)
2. 「ファイル」→「スキャナソースの選択」でスキャナの製品名を確認
3. 読みとる対象をスキャナにセットして「ファイル」→「イメージのスキャン」
4. カラーと解像度を指定 (通常は白黒、600dpi 程度か)
5. 画像が表示されたら、 ボタンを押して、必要なところを切り取り
6. Power Point に貼り付け

同様の手順で画像ファイルを切り貼りできる。

---

## ファイルの保存

通常の保存は「上書き保存」または「名前をつけて保存」すればよい。\*.ppt という拡張子のファイルが保存できる。ただし、ほかのファイルにリンクなどしている場合や、特殊なフォントをつかっている場合には、このファイルだけを別のところにコピーするとうまく動かないことがある。

他の環境でも確実に同一のプレゼンテーションができるようにする場合は、「ファイル」→「プレゼンテーションパック」を使う。フルセットでプレゼンテーションパックをつくと、リンクされているファイル、使用されているフォント、PowerPoint 再生専用ソフトがまとめてひとつの圧縮ファイルに保存さ

れる (はずだが、実際には再生ソフトは未対応の模様)。Windows 環境であれば、どのパソコンでも確実に再生できる。

---

## ノートとアウトライン

PowerPoint の通常の画面では、下端に「ノート」、左端に「アウトライン」が表示される。

- 「ノート」は自分の手持ち用の原稿として利用できる。
  - 「アウトライン」はスライドのタイトルなどから自動的に作成される。スライドの順番の変更などはここで操作する。
- 

## 印刷

圧縮した印刷

- 「印刷」で印刷対象を「配布資料」にして「ページごとのスライド数」を指定
- 「印刷」のプロパティで「シートごとのページ」を設定してタイル印刷 (プリンタの種類によって使えないことがある)

ノートの印刷

- 「印刷」で印刷対象を「ノート」にする

印刷の際は「単純白黒印刷」または「グレースケール」にしておくといよい。

---

## 参考文献

- プロジェクト A・できるシリーズ編集部 (2003) 『できる PowerPoint 活用編: 2000&2002 対応』インプレス。
- Sane (n.d.) 「Microsoft(R) Power Point(R) の使い方」  
<<http://www.sail.t.u-tokyo.ac.jp/~sane/powerpoint/>>.